



2022 (令和 4) 年 8 月 3 日

日立造船株式会社
取締役社長兼 CEO 三野 禎男 様

日本イヌワシ研究会 (SRGE)
会長 須藤明子

「(仮称) 会津大沼風力発電事業 計画段階環境配慮書」に対する意見

日本イヌワシ研究会は、1981 年の発足以来、わが国で絶滅の危機にあるイヌワシの調査研究と生息地保全に取り組んでいます。当会の調査研究によって、国内に生息するイヌワシの繁殖成功率が 10% 台にまで低下していること、既知の生息地から消失してしまったつがいが、これまでに 120 つがいにのぼること等が明らかとなっています。

配慮書で示された事業実施想定区域とその周辺（以下、計画地）は、古くからのイヌワシの生息地を含んでおり、博士山から続く主稜線部はイヌワシが主要なハンティングエリアとして連続的に利用する地形です。計画地における風力発電施設の建設は、衝突死の危険性が極めて高く、イヌワシへの重大な影響が避けられないと考えられます。

イヌワシは、広大な生息地全体を季節や年によって使い分け、獲物となる中小動物に支えられて生きている完全肉食の大型猛禽類です。イヌワシが生息していることは、広範囲に生物多様性が保全されていることを示しており、そのため計画地は「会津山地縁の回廊」に指定されています。

計画地は、広域を俯瞰して残すべき特別な自然環境であることから、風車の位置や基数の変更等の小さな対策によって、イヌワシの衝突死を回避すれば良いという考え方は適切ではなく、再生可能エネルギー促進のために犠牲にしてよい場所ではないと言えます。

以上より、日本イヌワシ研究会は、貴社が計画している（仮称）会津大沼風力発電事業について、配慮書の段階で中止することを求めます。

【連絡先】

日本イヌワシ研究会事務局 沖 浩志（事務局長）
〒294-0025 千葉県館山市大戸 37
TEL : 070-1410-8808 Email : okitegami_zone@yahoo.co.jp